

検見川の浜ビーチフェスタ 2023 春

検見川の浜の生き物たち

浦部 純子 (千葉市)

日 時：2023年5月28日(日) 10:00~14:00 天候：晴れに近い曇り

参加者：ほぼ200名(就学前子ども~大人) ビンゴ用紙140枚+用紙無し+お家の人

担当指導員：田島・平田・梅宮・浦部、事務局：伊藤、清野さん(会員外：貝部門)

検見川の浜の魅力を知ろうと千葉市が地元企業や団体と2013年から定期開催してきたイベント「検見川の浜ビーチフェスタ」。今回のテーマは「つながり、ひろがる」です。アクティビティ・ドラム体験やキッチンカーの飲食ブースなど、ビーチでのいろいろな楽しみも用意されました。初めて参加する当会は案内所隣のテントに会の幟旗を立て、長机3台とキャンプ用テーブルに生き物の



展示、ファーブル、検見川の浜の生き物の写真、ビンゴ用紙、くじと景品、清野さんの貝調べを並べました。大人も子どもも楽しく検見川の浜の生き物に触れて、生態観察ができるように、メンバーは風の強い満潮(10時24分に131cm)が近づく中でビンゴに必要な生き物の事前採取を始めます。田島さんは集合時間前から、荷物を全部持ったままでヨットハーバー寄りの突堤で胴長・タモ網で奮闘です。

1. 平田さん・梅宮さんも合流して東側の岩場で1時間程
2. 作業です。海藻(ツメタガイの卵塊:砂茶碗も)、カキに
3. ついたイソギンチャク、カンザシゴカイ(白いグネグネ
4. した管状の棲み家も)、細い流木にくっついているフジ
5. ツボ、ハゼの稚魚、カニ、巻貝、ヤドカリ、貝殻、そして
6. 赤い筋が中心から放射状に走っている3cm程のアカクラゲも採集できました。これらをテーブルに、①海藻、



②貝殻、③カンザシゴカイ、④イソギンチャク、⑤フジツボ、⑥魚、⑦カニ、⑧二枚貝・巻貝、⑨ヤドカリ・エビジャコ、⑩アカクラゲ(さわっちゃダメ!)と分けて並べますが、テントでは日影が確保できず、何度も海水を入れ替えながらの展示となりました。10時になってイベントの開始早々から子どもたちは「何?!なに?!」と寄り始め、「ビンゴ」の言葉に



好反応でした。A5版のビンゴ用紙もちょうど良いサイズで、紙と鉛筆を持ちながら「これはどこ？」と訊かれるだけで、こちらも楽しくてうれしくて、いくらでも一緒に遊べると思えました。ビンゴの「カニをつかもう！」で、すぐに触れる子もいれば、「ちょっと～ん…」といって甲羅の表面をなでる子といろいろです。フジツボ・イソギンチャク・ゴカイは目いっぱい体を広げたり、つつくと一瞬で引っ込んだりを繰り返し、動きがなんともおもしろく、ゆっくりと観察できました。

「きょうのはっけん！」はみんな一生懸命に考えて描いていました。田島さんにビンゴを埋めて見せると、「これは何を描いてくれたの？」と、やさしく訊いてもらえます。ヤドカリ競争は、自分で選手を選んで競技場にセットして何度でもできるので、大きめのヤドカリは「出番が多くてなんて日だ！」と思ったことでしょう。くじを引き、景品をゲットして楽しかったと思ってもらえたらいいね。



来訪者はお昼時でも途切れることなく、たくさんの方でずっとにぎやかなブースでした。ファミリーが多かったのですが、皆さん熱心に参加されて、検見川の浜にこんなにもいろいろな生き物がいることに驚いていました。これから海を見る目が変わるとうれしいです。店じまい時は、砂に足を取られながらよたよたと浜を行ったり来たり。ハードな一日でした。

私たちの朝の採集の様子と片づけで、生き物を海に帰す様子を見てくれていた人から「何をしているの？、

孫に見せてもらえる？」と、声を掛けられました。いろんなふれあいがあって、知り合いがたくさんできたような気持ちです。

海が楽しい季節がやってきました。今度、子どもたちに会ったら、得意げな顔でいろんなことを教えてもらえそうです。楽しみにしています。

